

◆ 排卵誘発剤について ◆

排卵障害がある場合や、体外受精などを行う時に卵胞を育て排卵を促すために排卵誘発剤を使用します。

『クロミッド』『セキノビット』

視床下部に作用して下垂体から卵胞刺激ホルモン (FSH) の分泌を増加させて、卵巣での卵胞の成熟を促します。

抗エストロゲン作用があり、頸管粘液の分泌や子宮内膜の肥厚を妨げる事があります。

6ヶ月以上使用しても妊娠に至らなければ別の薬に変えてみた方がよいでしょう。

副作用：目のチカチカ感、吐き気、頭痛等の症状があらわれる事があります。

まれに卵巣刺激症状(腹部のはり感)を伴うこともあります。

『レトロゾール』

アロマターゼ阻害剤でエストロゲンの生成を阻害し、視床下部に作用して下垂体から卵胞刺激ホルモン (FSH) の分泌を増加させて、卵巣での卵胞の成熟を促します。無排卵症やPCO(多のう胞性卵巣)の場合に使用することで排卵を誘発することができます。また、クロミフェンにうまく反応しない場合にも効果があると言われていています。乳がんの術後補助療法として開発されたお薬ですが、最近その効果が認められ排卵誘発に使われ始めた薬です。特徴は抗エストロゲン作用がなく、頸管粘液や内膜に悪影響を及ぼさないことです。

この薬は妊娠中には飲んではいけない薬ですが、排卵させるために内服しても、妊娠が成立する時期には薬は体内からなくなっております。したがって、胎児へ影響をおよぼすことはないと考えられます。

副作用：まれに吐き気、頭痛、ほてり感等の症状があらわれる事があります。